

# 看心ふらの

令和7年度第2号（75号）

発行日 令和8年3月18日

発行者 富良野看護専門学校



雪解けが進み、今年度も残りわずかとなりました。

昨年8月末の「看心ふらの」第1号で上半期の学生の様子をお伝えしましたので、今回は下半期の授業や行事についてお伝えします。

3月2日に卒業式が挙行されましたが、卒業式については第3号でお知らせします。写真等が揃うまで、もう少しお待ちください。

（校長 石川）

## 看護技術発表会をしました



<令和7年10月16日（木）>

1年生がこれまでの半年間で学んできた知識や技術を一人ずつ実践する「看護技術発表会」が行われました。学生たちは夏休み中や放課後も、熱心に看護技術の練習をしてきました。患者さん役は先生なので緊張しますが、患者さんの気持ちに寄り添って適切なケアを行いました。ユニフォーム（白衣）が今年度から新しいデザインになりました。紺のラインがキリリとしていてよく似合っていますね。



患者さんの気持ちに寄り添える看護師を目指して



バイタルチェックは、学生と教員と一緒に確認できるように特別な聴診器を使います



準備や後片付けもテキパキと

実施する看護ケアについて、担当教員に報告します



ケアを行った後の振り返りが大事です



笑顔と♡で記念撮影

## ヘルスアセスメントの実技テストを行いました

<令和7年9月24日(水)>

1年生のヘルスアセスメントの実技テストの様子です。「腹痛を訴える患者」と「呼吸苦を訴える患者」への観察と対応を実際に行います。今年度導入した多職種連携ハイブリッドシミュレーターも利用して、より実践的な内容になりました。

学生は事前学習と技術練習を十分に行って実技テストに臨んでおり、実力が発揮できるように緊張感いっぱいの時間なのですが、カメラには笑顔でピースの明るい学生達です。



## 中学生の皆さんに職業体験をしていただきました

<令和7年10月10日(金)・16日(木)>

富良野東中学校と富良野西中学校の生徒の皆さんが、職業体験のために来校されました。

看護師になるための知識や技術について、熱心に説明を聞き体験を楽しんでいただきました。職業体験で看護への興味を深めて、将来は看護職になりたいと思ってもらえたらうれしいです。



赤ちゃんモデルを抱いてみました。  
安定感があってとても上手です👍



シミュレーターで、心音や呼吸音を確認しました。  
聴診器を上手に使っていますね。



老人体験モデルを装着しました。  
動きにくいし、見えにくい！



## 地域・在宅看護論の演習を行いました

<令和7年10月30日(水)>

「スミスメディカル・ジャパン株式会社」様、「函館酸素株式会社」様のご協力で、2年生が地域・在宅看護の演習を行いました。

人工呼吸器や気管切開、酸素吸入など、暮らしの場で行われている治療や看護を理解するために、人間に近い構造である豚の肺を人工呼吸器につなげてその形態を観察し、体のつくりや動きについての学習を深めました。このような演習は全国でも珍しく貴重な体験となります。



## ケーススタディ発表会を行いました



<令和8年1月27日(火)、28日(水)>

3年生がケーススタディ発表会を開催しました。

ケーススタディは、学生が実習での看護経験を振り返り、看護について深く考察する学習です。実習で実際に行った看護について研究論文の形式でレポートを提出し発表し質疑応答の後に学生と教員から講評を受けるという学習内容は、3年間の総まとめでもあります。

今回の発表会では、対象理解を深めるアセスメント、生活に着目した具体的な支援、患者の自立に向けたケア、退院後の在宅生活に向けたケアなどについて、質の高い考察が行われました。



## 診療技術演習を行いました

<令和8年2月17日(火)>

2年生が、診療援助技術論の授業として「注射による与薬法」の技術演習を行いました。

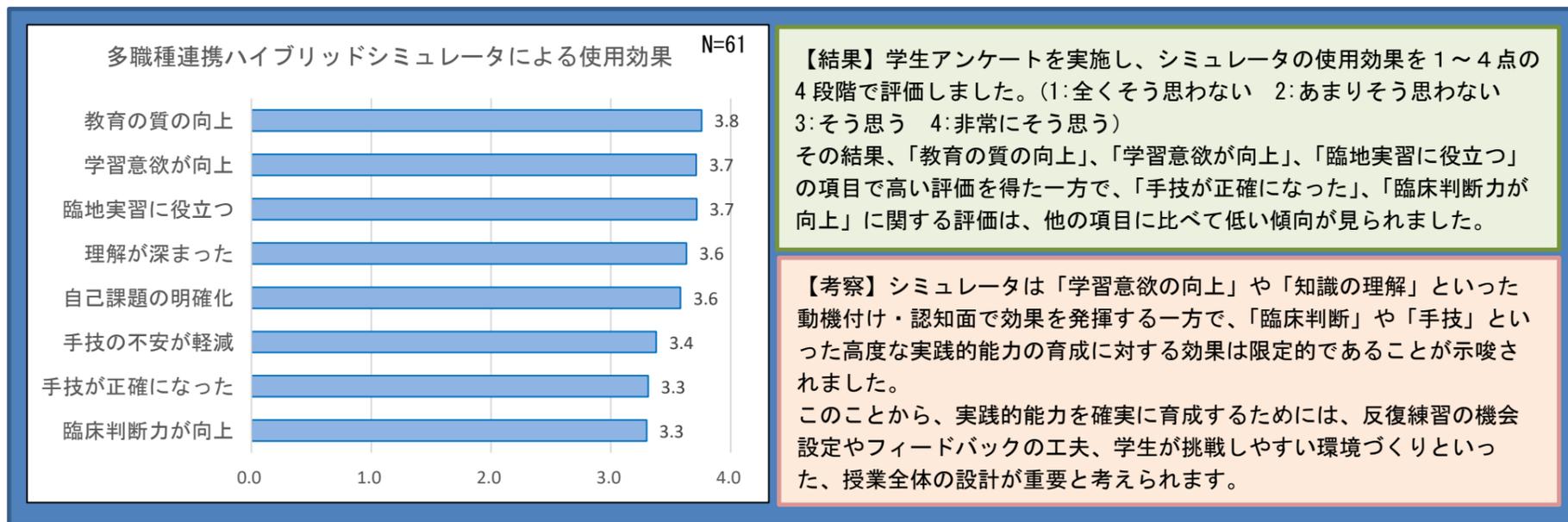
皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射などについて、トレーニング用のモデルを使い、教員の丁寧な指導によって繰り返し練習することで、専門的な技術をしっかりと身につけることができます。



厚生労働省の「看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション効果検証事業  
(看護師等養成所におけるDX効果検証事業)」のご報告

「看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション効果検証事業(看護師等養成所におけるDX効果検証事業)」は、看護師養成所のDX推進を目的に行われた事業で、事業の企画案を厚生労働省に提出した全国の看護師養成所の中から10校が選定されました。

富良野看護専門学校はその10校に選ばれ、「多職種連携ハイブリッドシミュレータ」「周産期全身モデル」「小児の身体診察シミュレータ」「電子黒板」等を導入した授業を実践し、令和8年1月末に厚生労働省へ検証結果の報告をしました。全国10校の事例は厚生労働省で報告書として公表される予定です。当校の効果検証の内容の一部を、ご報告いたします。



**【結果】** 学生アンケートを実施し、シミュレータの使用効果を1～4点の4段階で評価しました。(1:全くそう思わない 2:あまりそう思わない 3:そう思う 4:非常にそう思う)  
その結果、「教育の質の向上」、「学習意欲が向上」、「臨地実習に役立つ」の項目で高い評価を得た一方で、「手技が正確になった」、「臨床判断力が向上」に関する評価は、他の項目に比べて低い傾向が見られました。

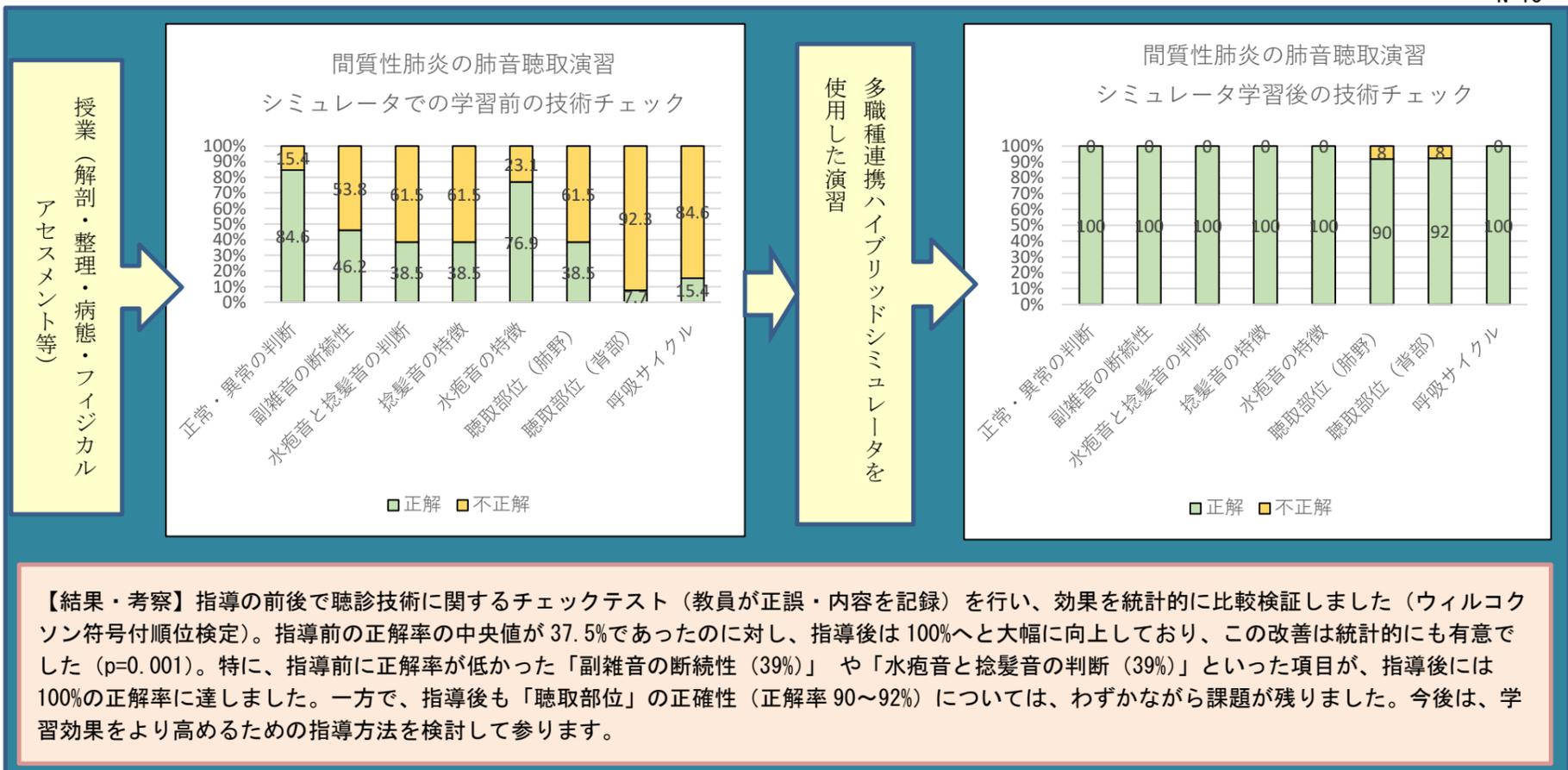
**【考察】** シミュレータは「学習意欲の向上」や「知識の理解」といった動機付け・認知面で効果を発揮する一方で、「臨床判断」や「手技」といった高度な実践的能力の育成に対する効果は限定的であることが示唆されました。  
このことから、実践的能力を確実に育成するためには、反復練習の機会設定やフィードバックの工夫、学生が挑戦しやすい環境づくりといった、授業全体の設計が重要と考えられます。

＜学生アンケート自由記載欄の内容＞

カテゴリ	要点	件数
基礎的な学習内容の理解	①言葉だけでは難しい内容も、シミュレータ併用でイメージしやすく理解が進んだ。	32
	②呼吸音・肺音・心音・腸音などを実際に聴くことで理解が深まった。	27
	③正常音と異常音を比較・聴き分ける練習が有効で、誤認識の修正につながった。	16
手技・観察・報告の理解	○観察項目の確認、聴取部位・測定位置の把握、観察から報告の流れを体験できた。	13
電子カルテ、処置の流れの理解	○カルテの見方や医師指示から投与までの流れを具体的に学べ、臨床像の把握に役立った。	7
実習前の不安軽減・準備	○事前練習により不安が軽減し、臨床への自信・準備が整う。	13
今後の希望	○実習前の活用、病態設定、1対1指導など、継続的な利用希望が多い。 ○インターネット不具合の指摘あり。	11



N=13



**【結果・考察】** 指導の前で聴診技術に関するチェックテスト(教員が正誤・内容を記録)を行い、効果を統計的に比較検証しました(ウィルコクソン符号付順位検定)。指導前の正解率の中央値が37.5%であったのに対し、指導後は100%へと大幅に向上しており、この改善は統計的にも有意でした(p=0.001)。特に、指導前に正解率が低かった「副雑音の断続性(39%)」や「水疱音と捻髪音の判断(39%)」といった項目が、指導後には100%の正解率に達しました。一方で、指導後も「聴取部位」の正確性(正解率90~92%)については、わずかながら課題が残りました。今後は、学習効果をより高めるための指導方法を検討して参ります。

「デジタル版QR」 →



富良野看護専門学校ホームページ